

Ⅱ 「確かな学力」の育成

1 「習得」とその「活用」を図る授業について

(1) 今年度の課題

基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得とその活用を図る学習活動を重視した授業の充実に努める。

(2) 課題解決に向けた取組

確実な習得と活用を図る授業（熊本型授業）づくりを支援するとともに、小・中連携の視点も踏まえ、校内での共通理解や継続的な取組を推進する。

(3) 取組の実際

ア 「習得」と「活用」を意識した授業づくりについて

学校訪問の全体会や校内研修推進事業等で、「知識・技能の確実な習得とその活用を意識した授業づくり」について、一単位時間の問題解決的学習の学習過程に沿って授業改善のポイントを示し、指導を行った。授業改善のポイントは以下のとおりである。

ポイント① 「習得」と「活用」の意識化

一単位時間の学習過程において、「つかむ」段階では、「既習事項（いわゆる習得している内容）の確認の場」を意識的に設定し、「さぐる」「深める」段階では、一人学びや交流の場で、「習得したものを児童生徒が主体的に活用していく場」を意識的に設定する。

また、「まとめる」段階では、その時間に習得させるべき事項を確実に習得し、次の新しい課題の解決の過程で児童生徒が活用できるようにする。

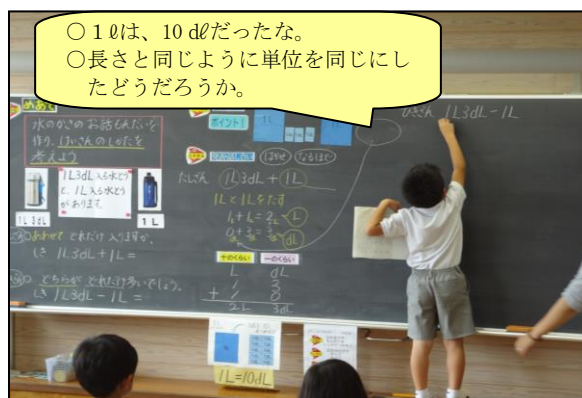
(図1)

学校訪問で参観した授業において、この点を意識した授業が見られた。
(下写真)

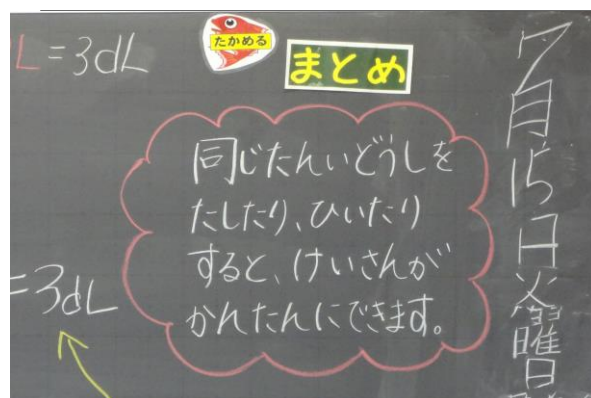
＜図1：一単位時間の習得と活用の場の設定＞



(上天草市立龍ヶ岳小学校 学校訪問 小2算数の授業から)



＜「深める」段階での習得したものの活用例＞



＜「まとめる」段階での習得したことの確認例＞

ポイント② 4つの整合性

本時の授業を考えるとときは、必ず学習指導要領に基づき、単元の目標を踏まえたうえで、本時の目標を設定することが大切である。その際、本時の目標と評価基準との整合性が図られるようにする。

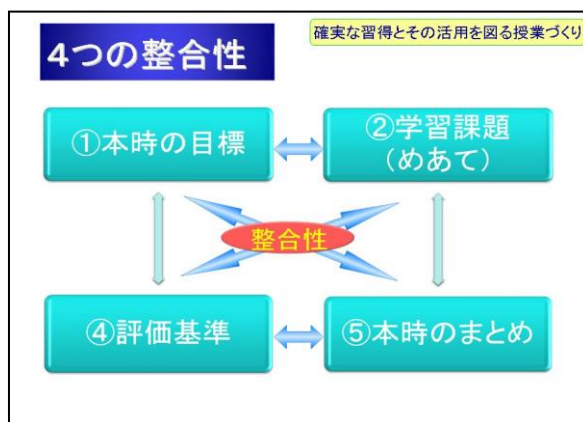
また、「めあて」の設定についても、

＜図2:4つの整合性＞

「めあて」を追求することで本時の目標が達成できるように設定する。ここでも「めあて」と「まとめ」について整合性を図ることが大切である。その上で、相互に整合性が図られていれば、ねらいが明確になった授業と言える。

(図2)

引き続きこの4つの整合性が図られているかどうかという視点で指導案を検討していただきたい。



ポイント③ 評価基準(B)の設定

評価基準を設定する際は、児童生徒が本時の目標を達成できたかを判断するものさしとなるよう「具体的な子どもの姿」で表すようにする。(図3)

実際の授業の場面における評価基準の設定の事例を示した資料(「学習評価の一層の充実に向けて～評価基準の設定とそれに基づく授業づくり～」)が、熊本県教育委員会ホームページに掲載されているので参考にさせていただきたい。

＜図3:評価基準(B)の設定＞

評価基準の設定

小5国語「大造じいさんとガン」での心情をとらえる例

3場面の文章から、大造じいさんの「残雪」に対する心情の変化を読み取っている。

さらに具体的な児童の姿で……

「ただの鳥に対してしているような気がしませんでした」等の部分から、大造じいさんが「残雪」に対して、**尊敬に似た心情**への変化をノートに**記述**している。

ポイント④ 「めあて」と「まとめ」の板書

「めあて」と「まとめ」については、授業の中で確実に板書をしていただきたい。児童生徒にも、導入の段階で学習ノートに「めあて」を書かせ、最後に「めあて」に対する「まとめ」をきちんと書かせるようにする。まとめ方としては、教師の一方的な「まとめ」ではなく、授業の中で児童生徒が表現したものを生かし、児童生徒の成就感を高めるよう留意する必要がある。(図4)

＜図4:「めあて」と「まとめ」の板書＞

「めあて」と「まとめ」

めあて
……………。

解決することで、本時の目標が達成できるような表記で。
板書とノート

しっかり、確実に、児童生徒と行う。板書

まとめ
……………。

イ 「習得」と「活用」に関する天草管内の状況

「習得」と「活用」を図る学習活動を重視した授業づくりについては、各学校で校内研修における研究授業を通して、共通理解、共通実践が進められている。平成26年度の天草管内の状況は、表1、2のとおりである。

<表1:「習得」と「活用」を図る学習活動を重視した授業づくりの天草管内の状況>

() は県平均

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
「習得」と「活用」を意識した授業の展開を図っている教職員の割合	87.9 (82.0)	91.8 (84.5)	79.3 (80.3)	81.7 (82.2)

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れていると回答した教職員の割合		98.9 (98.1)		94.4 (96.8)

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていると回答した教職員の割合		95.1 (91.8)		88.3 (86.9)

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行っているとは回答した教職員の割合	63.5 (58.6)	71.6 (61.7)	42.7 (47.1)	43.4 (49.0)

(H25、26熊本県学力調査 教師質問紙調査から)

【考察】

- ・「習得」と「活用」を意識した授業の展開については、小学校においては県平均を大きく上回っているものの、中学校は昨年度より高くなっているが、県平均を下回っている。
- ・授業の冒頭に目標を示す活動を取り入れている教師は、小学校では県平均を上回っているが、中学校では、県平均を下回っており、学校総体として取り組む必要がある。
- ・授業の最後に、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていることに関しては、小学校、中学校ともに、県平均を上回っている。
- ・児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて、個に応じた指導を行っている教職員は、中学校で県平均を下回っている。

<表2:「知識」「活用」別定着率の天草管内の状況>

(○…県平均を上回る ▲…県平均を下回る ―…県平均と同じ)

		小3	小4	小5	小6	中1	中2
「知識」	国語	—	▲	○	○	○	○
	社会	▲	▲	○	—	○	▲
	算数・数学	▲	○	○	○	○	○
	理科	○	▲	○	▲	○	○
	英語					▲	○
「活用」	国語	▲	○	○	○	○	○
	社会	○	○	▲	○	○	○
	算数・数学	▲	○	○	▲	○	○
	理科	○	▲	○	▲	○	▲
	英語					○	○

(H26熊本県学力調査 から)

【考察】

- ・小学校については、全体的に昨年度より低下している。特に小学校3年は、「知識」「活用」に関わらず課題が見られ、小学校4年は、「知識」に課題が見られる。
- ・小学校3、4年生では、「関心・意欲を高める導入の工夫」や「学習したことを振り返り、定着を図る活動」を行う必要がある。
- ・「学習課題の提示」や「本時のねらいに迫る発問」の工夫を行い、主体的に学習に取り組む態度を育成する必要がある。

(4) 成果と課題

- 教師の授業づくりの視点から校内で共通理解を図り、研究授業を全体の検証の場と位置づけ、年間を通して継続的な取組を進めている学校があった。
- 基礎的・基本的な知識・技能を「習得」する場面とそれらを「活用」する場面を意識的に設定した授業が多く見られた。特に、「めあて」と「まとめ」の板書については、特別支援教育の視点から、すべての児童生徒が理解できるよう工夫している学校があった。
- 「本時の目標」「めあて」「評価基準」「まとめ」の4つの整合性を図ることや評価基準を「具体的な子どもの姿」で設定することについては、引き続き研究授業等で指導案を検討する視点として重視する必要がある。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るために、学習したことを振り返り、理解の程度の確認を行う必要がある。

(5) 次年度へ向けた重点課題

- 「習得」と「活用」を図る学習活動を重視した授業づくりをさらに推進し、校内で共通理解・共通実践を図りながら、全ての児童生徒の学力向上を図る。

<参考資料>

- ・学習指導要領解説 平成20年8月(中学校)、9月(小学校)
- ・平成25年度「熊本県学力調査」結果報告書 熊本県教育委員会 平成26年3月
- ・平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年1月
- ・平成26年度全国学力・学習状況調査 報告書 文部科学省 平成26年8月
- ・学習評価の一層の充実に向けて
- ～評価基準の設定とそれに基づく授業づくり～ 熊本県教育委員会 平成24年3月

2 言語活動の充実

(1) 今年度の課題

- ア 教科等の目標達成に向けた言語活動の充実を図る。
- イ 主体的に学ぶ意欲を高めるための発問構成等の工夫改善を図る。

(2) 課題解決に向けた取組

- ア 目標やねらいの達成のための効果的な言語活動となるよう、指導計画への位置付けや設定について指導・助言を行う。
- イ 授業の構成、発問等について具体例をもとに指導・助言を行う。

(3) 取組の実際

ア 教科等の特質に応じた言語活動の充実について

学校訪問や校内研修推進事業等の中で、「教科の目標や授業のねらいを達成するための手段としての言語活動を行う」ことについて、指導を行った。

言語活動の充実については、多くの学校で校内研究の柱の1つとして位置付けられ、共通理解のもと、授業実践が行われていた。

留意すべきことは、授業の中で各教科等の目標が達成できるように、教科の特質や児童生徒の発達段階に応じた適切な言語活動を選定し、何をどのように表現させるのか「言語活動の意図」を明確に設定することである。(図5)

特に思考力・判断力・表現力を高めるためには、教師の発問がポイントとなる。共同解決における班での話し合い活動を行う際に、目標やねらいに迫るための一問多答の発問、補助発問、切り返しの発問等を準備しておく必要がある。

イ 「言語活動の充実」に係る天草管内の状況

「言語活動の充実」については、多くの学校で校内研究のテーマや内容に設定し、共通理解、共通実践が進められている。天草管内の状況は表3のとおりである。

＜表3:「言語活動の充実」に係る天草管内の状況＞ () は県平均

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
児童生徒が自分の思いや考えを書いたり、発表したり、意見を交換する場を設けている教職員の割合	95.8 (92.7)	94.9 (92.1)	79.7 (78.1)	76.8 (78.1)

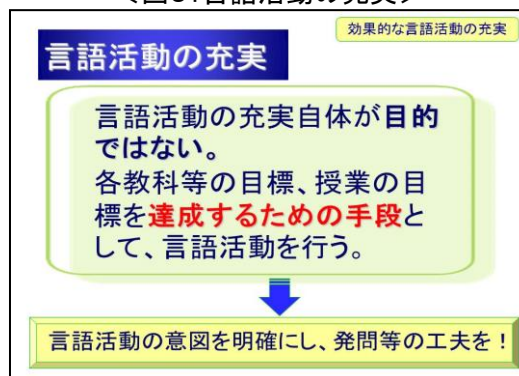
項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
文章、絵や写真、図や表、グラフなどを関連付けて読み取らせ、考えたことなどを表現させるような学習活動を行っている教職員の割合	84.9 (82.8)	89.3 (84.0)	66.3 (68.4)	63.9 (68.2)

(H25、26熊本県学力調査 教師質問紙調査から)

【考察】

- ・ 小学校においては、両項目で県平均を上回り、資料を関連づけての学習活動については、昨年度よりも向上している。
- ・ 中学校においては、両項目とも県平均を下回るとともに、昨年度より下がっており、言語活動の充実を意識して取り組む必要がある。

＜図5:言語活動の充実＞



ウ 言語活動の前提となる発問構成

学校訪問や校内研修推進事業では、多くの授業で「言語活動の充実」が授業改善のポイントとして位置づけられていた。しかし、教師が、児童生徒に活動をさせることに留意するあまり、指示が中心となっている授業が見受けられた。

指導案の本時の展開においても、「発問がねられていない」「発問と指示が区別されていない」「発問自体が位置付けられていない」といった課題があった。

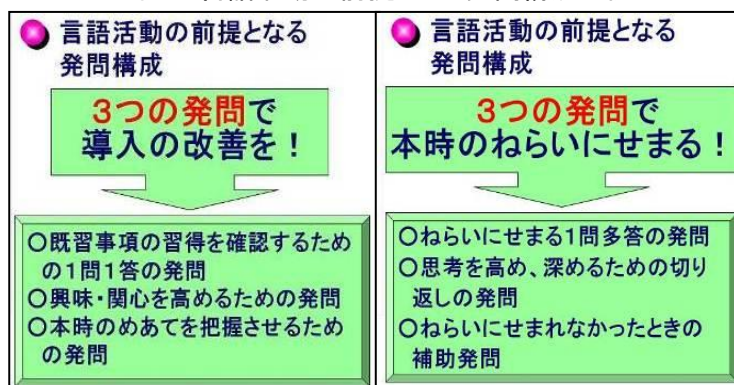
発問が練られていないと、児童生徒の中まで入っていかず、思考が十分に始まっていない状態となり、教師の指示によって活動が進められることになる。

このような学習状況では、児童生徒は、受動的な学習態度となり、いわゆる教師主導の授業になってしまう。

学力の3要素の1つである「主体的に学習に取り組む態度を養う」ためにも、1単位時間における発問構成を十分に練って授業に望むことをお願いしたい。

例えば、導入を改善するための3つ発問や本時のねらいにせまるための3つの発問（図6）が考えられる。ぜひ、今後の授業改善の視点の1つとしてさらに取り組んでいただきたい。

＜図6: 言語活動の前提となる発問構成の例＞



（4）成果と課題

- ほとんどの学校で、「言語活動の充実」を校内研修の研究の柱の1つとして位置付けて取り組まれていた。また、指導案の「本時の展開」に、「言語活動の意図」が位置付けられている学校があった。
- 班や学級全体で、言語活動の意図に応じて、小ホワイトボード等を活用して自分たちの考えを説明したり、発表したりする活動を位置付けた授業が見られた。
- 言語活動を充実させる前提として、導入における3つの発問（「既習事項の習得を確認するための1問1答の発問」「教材や学習内容への興味・関心を高めるための発問」「本時のめあてを把握させるための発問」）や展開における3つの発問（「ねらいにせまる1問多答の発問」「思考を高め、深めるための切り返しの発問」「ねらいにせまれなかったときの補助発問」等、1単位時間における発問構成を工夫する必要がある。
- 言語活動の一つとして「話し合い活動」の設定が行われているが、自分の考えの紹介にとどまってしまうことが多く見られる。考えを深める、広げるためにも、学習課題の確実な理解、明確な考え、考えの根拠となることの説明ができるようにする必要がある。

（5）次年度へ向けた重点課題

- 教科の目標や授業のねらいに応じた言語活動を選定し、何を、どのように表現させるのか「言語活動の意図」を明確に位置付ける。
- 言語活動を充実させる前提として、一人学びでの学習活動を充実させる必要がある。

<参考資料>

- ・学習指導要領解説 平成20年8月(中学校)、9月(小学校)
- ・言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】 文部科学省 平成22年12月
- ・言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】 文部科学省 平成23年5月
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm)
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1306108.htm)
- ・平成25年度「熊本県学力調査」結果報告書 熊本県教育委員会 平成26年3月
- ・平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年1月

3 県学力調査の活用

(1) 今年度の課題

県学力調査等や全国学力・学習状況調査等を活用した教材開発や授業の充実を図る。

(2) 課題解決に向けた取組

県学力調査や単元別評価問題等を活用した教材開発や授業づくり、評価問題づくり等、各学校の実態に応じた活用の推進が図れるよう指導・助言を行う。

(3) 取組の実際

ア 県学力調査や課題克服プリント、単元別評価問題の活用について

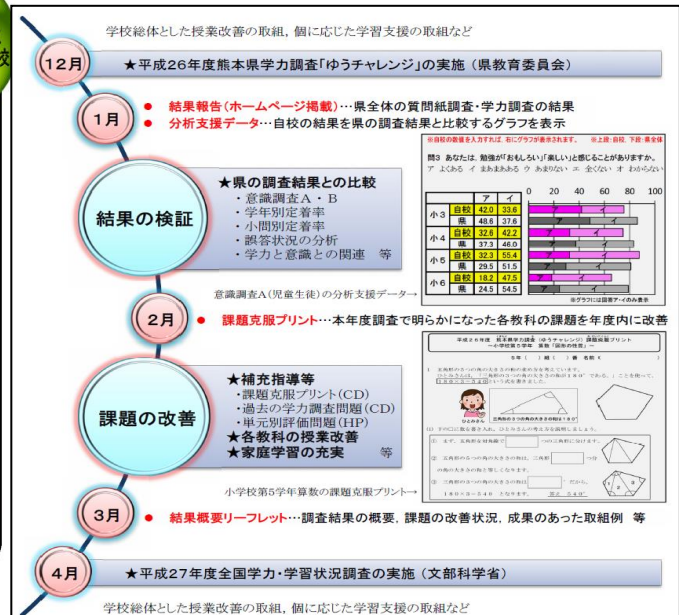
今年度も、「県学力調査(ゆうチャレンジ)」の結果報告を県教育委員会ホームページにのせるとともに、各小・中学校へ「分析支援データ」と「課題克服プリント」を提供した。また、結果の概要をリーフレット形式で全教職員へ配付する(4月配付予定)。このリーフレットには、県全体の分析結果をはじめ、学力向上に成果のあった取組例などを紹介してある。(図7)

これらを活用して、自校の意識調査と学力調査の結果を県の調査結果と比較・分析するなどして、自校の課題を明らかにするとともに、その課題改善に向けて各教科の授業改善はもとより、補充指導等の充実を図るなど、学校総体として学力向上の取組を検証・改善していただきたい。(図8)

<図7: 成果のあった取組の例>



<図8: 学校における取組の例>



(平成26年度「熊本県学力調査」結果(概要)から)

イ 県学力調査の活用に係る天草管内の状況

各学校で県学力調査や単元別評価問題の活用が進められている。天草管内の状況は、表4のとおりである。

＜表4：県学力調査の活用に係る天草管内の状況＞ （ ）は県平均

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
県学力調査の結果を指導方法の工夫改善に活用している教職員の割合	52.8 (45.1)	61.6 (49.7)	44.3 (46.8)	42.1 (47.0)

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
県学力調査の問題を教材開発に活用している教職員の割合	37.7 (34.2)	49.7 (36.6)	38.3 (43.2)	44.3 (43.8)

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
県学力調査の問題を評価問題の作成に活用している教職員の割合	34.4 (29.7)	46.7 (33.8)	55.9 (54.1)	58.7 (55.6)

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
県学力調査の問題を発問の工夫に活用している教職員の割合	53.8 (45.0)	58.8 (48.4)	35.9 (41.9)	41.9 (41.7)

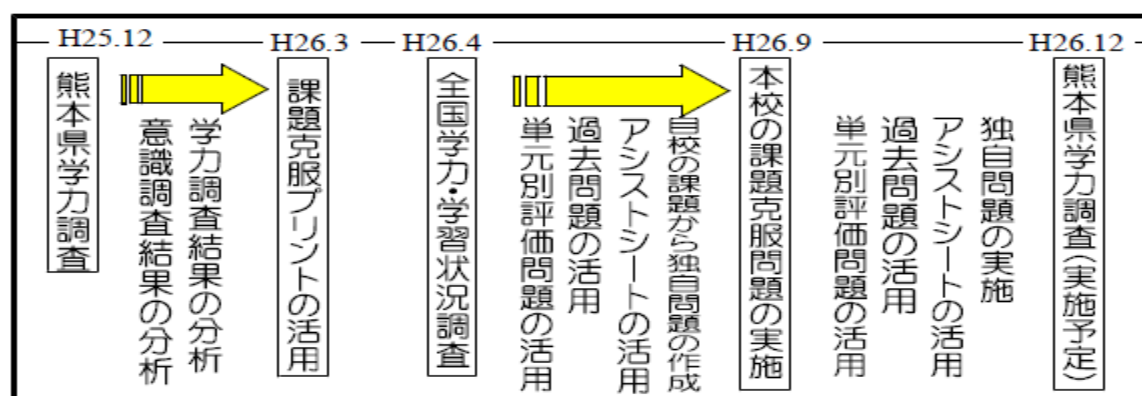
(H25、26熊本県学力調査 教師質問紙調査から)

【考察】

- ・ 県学力調査結果を指導方法の工夫改善へ活用することについては、小学校、中学校ともに昨年度より高くなったが、中学校は県平均より低くなっている。4～5割程度の活用状況であり、依然として大きな課題といえる。
- ・ 評価問題の作成への活用については、小学校、中学校ともに県平均も上回った。今後も課題克服プリントや単元別評価問題、過去の県学力調査問題とあわせて活用を図る必要がある。

天草市立本渡北小学校では、県学力調査と全国学力・学習状況調査結果から、自校の課題を把握し、その課題改善に向けて、学校総体として計画的、組織的な学力の検証改善サイクルの確立がなされていた。(図9)

＜図9：本渡北小学校の検証改善サイクル＞



【自校の課題解決に向けた検証改善サイクル】

(4) 成果と課題

- 過去の県学力調査の問題や単元別評価問題、課題克服プリントを授業時間外での学力充実の時間等で、学校全体で計画的に活用している学校が増えてきている。
- 全国学力・学習状況調査結果の活用について、義務教育課資料（県教育委員会HP掲載資料等）を参考に、調査結果を多面的に活用し、課題となる学習内容については、年間指導計画に記入したり、教科書等へ付箋を貼ったりするなど、意識して授業改善に取り組むよう工夫する必要がある。

(5) 次年度へ向けた重点課題

- 全国学力・学習状況調査と県学力調査を活用した学力向上の検証改善サイクルの確立に向けた学校総体としての具体的な取組を行う。
- 県学力調査等を発問の工夫や評価問題の作成に活用し、子どもたちが「好き」「分かる」と実感できる授業づくりの推進を図る。

<参考資料>

- ・平成25年度「熊本県学力調査」結果報告書 熊本県教育委員会 平成26年3月
 - ・平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年1月
 - ・平成26年度「熊本県学力調査」結果（概要）熊本県教育委員会 平成27年3月
 - ・単元別評価問題 平成23年3月 熊本県教育委員会 平成24年3月
- (<http://kyouiku.higo.ed.jp/page2017/006/page3554/page3555.html>)

4 基礎学力の定着

(1) 今年度の課題

個に応じた補充指導や、家庭学習の指導等の工夫改善を図る。

(2) 課題解決に向けた取組

補充指導や家庭学習の指導の工夫等について、研究指定校等の実践例を紹介しながら、各学校の実態に応じて取組の充実が図れるよう指導・助言を行う。

(3) 取組の実際

ア 基礎学力の定着に向けた取組について

学校訪問では、各学校における補充指導や家庭学習の状況を確認した。小学校では、授業以外に補充指導の時間を設定し、全教職員で基礎的・基本的事項の定着を図っている学校があった（図10）。また、家庭学習の課題を授業内容と関連させる工夫をしたり、校区内の中学校と連携を図り、家庭学習の習慣化に取り組んだりしている学校があった。

今後も、研究指定校等の実践を参考にしながら、家庭や地域との連携を図りながら、児童生徒の実態に応じた取組の充実をお願いしたい。

<図10:業間活動の時間を活用して思考力・表現力の育成に取り組んだ本渡北小学校の実践例>

のびのびタイム年間指導計画 5年			
月	思考力アップ	表現力アップ・具体的実践事項	言葉の世界
5	☒ 辞書の使い方 ☒ 整数と小数【1】	「紹介しよう」UVの思い出 ・簡単な紹介メモを書く。（はじ・中・終わ） ・メモをとりながら聞く。 ・感想を伝え合う。	枕草子
6	☒ 生き物は円柱形 ☒ 直方体や立方体の体積【2】	「算数の○○を説明しよう①」 ・問題を解く。（式・図・数直線などを使って） ・ペアで問題の解き方を説明したり質問したりする。 ・全体で説明の仕方を確認する。	平家物語
ア	「算数で第5回」		校取組

(☒ アシストシート、 ☒ ステップアップシート、 ☒ ゆうチャレンジ)

「言葉の世界」は、朝の会で、言葉遊び・詩・短歌などを音読する時間として位置づけ、毎日取り組んでいる。

多くの学校では、家庭学習の習慣化を図るために、「家庭学習のてびき」を作成している。

本渡北小学校では、発達段階を考慮し、系統性を持たせている。また、高学年では、中学校での自学の取組を参考にし、その日の授業の復習を中心とした自学ノートに取り組まれていた。(図 11)

＜図 11 中学校の自学と連携した本渡北小学校の実践例＞

6年

※ノート例

4月14日(月)

算数 計算の練習
① $1.5 \times 3 = 4.5$
② $8 \times 2 = 5.6$

社会 縄文時代のくらし
・生活の様子

国語 新聞記事を読む
四月十二日、天草の天草市が
九州北部豪雨で被災した高
森町の山林でクマなどの森
くりを始めた。この活動が
た理由は、土壌で倒れたて
林を同じが倒れて、森を回復
せたいと思ったからだ。今
回は約二百人参加した。
私は、この活動を終ると
本県内で助け合つことが
のめりを感じた。これか
らもう活動に続けて、立派な
に成長してほしいと思

図

・意見など

・感想

○計算問題などは、必ず○つけ、書き直し
までやりましょう。
○絵や図を入れてまと
めてもいいですね。

○学習内容に応じて、ノ
ートを区切って取り
組みましょう。
(スタンダード1/4
スペシャル1/2)
○それぞれの学習の一
行目には、教科と内容
を書きましょう。

○新聞記事を読んだり、
本で調べたりする
ときに、意味が分
からない言葉があれ
ば、国語辞典で調べ
ると更に力が伸びま
すよ。
○文章は字数を決めて
書いてみよう。

ノートを分割し、その日の復習を中心とした自学ノートの活用例

イ 基礎学力の定着に係る天草管内の状況

各学校で、個に応じた補充指導や家庭学習の指導等を工夫し、基礎学力の定着を図る取組が進められている。天草管内の状況は表5のとおりである。

＜表5：基礎学力の定着に係る天草管内の状況＞ () は県平均

項 目	小学校 [%]		中学校 [%]	
	H25	H26	H25	H26
家庭学習の充実に向け、独自の家庭学習の手引き等を作成し、取り組んでいる学校の割合	77.3	86.5	79.2	82.6

(H25、26教育指導の反省から)

項 目	小学校3年 [%]		小学校6年 [%]		中学校2年 [%]	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26
家で、宿題がないときは勉強をしない児童生徒の割合	15.0 (14.8)	22.3 (20.3)	26.1 (21.1)	32.9 (30.0)	31.6 (28.5)	39.8 (38.2)

項 目	小学校3年 [%]		小学校6年 [%]		中学校3年 [%]	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26
この1か月に本を1冊も読んでいない児童生徒の割合	4.7 (2.7)	5.4 (3.8)	3.4 (5.8)	2.5 (5.8)	29.0 (34.4)	28.2 (36.6)

項 目	小学校3年 [%]		小学校6年 [%]		中学校3年 [%]	
	H25	H26	H25	H26	H25	H26
前の学年で学習した内容を、もう一度先生に教えてほしいと思っている児童生徒の割合	47.9 (51.1)	51.6 (52.6)	57.6 (56.9)	56.4 (56.8)	75.5 (76.6)	76.3 (78.9)

(H25、26熊本県学力調査 児童生徒質問紙調査から)

【考察】

- ・家庭学習の充実に向け、独自の家庭学習の手引き等を作成し、取り組んでいる学校の割合は、小学校、中学校ともに増加し、小中ともに8割超となっている。
- ・宿題がないときは家で勉強しない児童生徒の割合は、県平均を上回っており、増加の傾向にある。自分で計画を立てて行うなど家庭学習の習慣化を図る必要がある。
- ・「前の学年で学習した内容を、もう一度教えて欲しい」と思っている児童生徒の割合は、学年が上がるにつれ増加している。つまり知っている既習事項を繰り返し指導するなど、個に応じた補充指導の充実を図る必要がある。

(4) 成果と課題

- 個に応じた補充指導については、担任や教科担当だけでなく、学校総体として教育活動として位置付け、計画的に取り組まれていた学校があった。
- 家庭学習の充実については、授業内容と関連させ、その日のうちに学習内容を振り返り、定着させるための工夫がなされている学校があった。
- 全職員で家庭学習のねらいについて共通理解を図り、授業、家庭学習、補充指導等の関連を図りながら、基礎学力の定着に向けた取組を工夫する必要がある。また、学習内容や方法等について、教職員による評価や児童生徒が互いに学び合う機会を工夫し、主体的に学ぶ態度を育成することが大切である。

(5) 次年度へ向けた重点課題

- 全職員で家庭学習のねらいについて共通理解を図り、授業、家庭学習、補充指導等の関連を図りながら、基礎学力の定着に向けた取組を行う。

<参考資料>

- ・平成25年度「熊本県学力調査」結果報告書 熊本県教育委員会 平成26年3月
- ・平成26年度「熊本県学力調査」結果報告 熊本県教育委員会 平成27年1月
- ・平成26年度「熊本県学力調査」結果（概要） 熊本県教育委員会 平成27年3月